



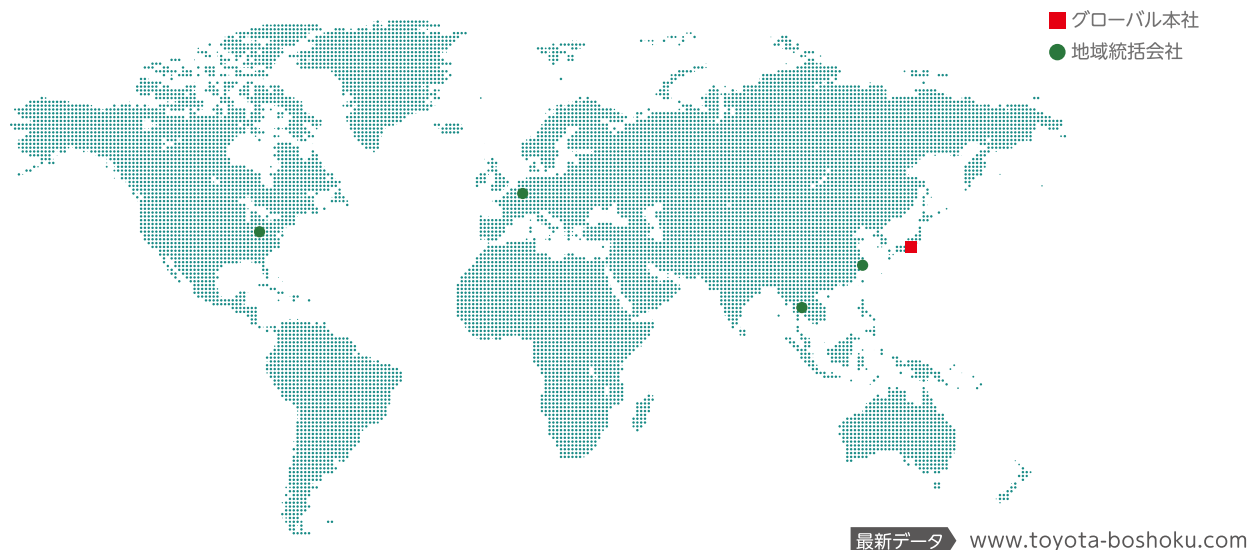
2050年 環境ビジョン

トヨタ紡織 「2050年環境ビジョン」策定

トヨタ紡織は、トヨタグループの自動車部品メーカーとしてシートや内外装、ユニット部品の開発・生産をグローバルに展開しています。

環境問題に対して長期的な視野を持ち、より高いレベルでの挑戦が必要と考え、「2050年環境ビジョン」を策定しました。

世界50,000人以上のトヨタ紡織グループの仲間たちとともに、
魅力的な製品づくりに取り組んでいます。



ビジョン

すべてのステークホルダーのみなさまと一致団結して、子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な地球環境を目指します。

トヨタ紡織が掲げる

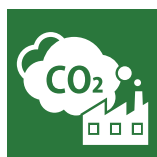
2050年に向けた

6つの

環境チャレンジ目標

気候変動

1



トヨタ紡織グループ
CO₂ 排出量ゼロに
チャレンジ

2



ライフサイクル
CO₂ 排出量ゼロに
チャレンジ

水不足

3



トヨタ紡織グループ
生産工程
水リサイクル化による
排出ゼロにチャレンジ

天然資源枯渇

4



天然資源
使用量ミニマム化に
チャレンジ

5



トヨタ紡織グループ
廃棄物ミニマム化に
チャレンジ

生物多様性危機

6



森づくり活動
132万本植樹に
チャレンジ

気候変動

1



トヨタ紡織グループ CO₂ 排出量ゼロにチャレンジ

世界各地で異常気象が頻発しています。このままでは「2100年には産業革命前の水準と比べ世界の平均気温が2.6～4.8℃上昇する」という報告※1があります。トヨタ紡織グループは「2050年までに工場のCO₂排出量ゼロ」にチャレンジします。革新的生産技術開発、製品・材料技術開発、工場改善、再生可能エネルギー・次世代エネルギーの活用でCO₂を大幅に削減していきます。

※1 IPCC 第5次評価報告書（2014年）

2



ライフサイクル CO₂ 排出量ゼロにチャレンジ

自社の自動車部品製造時に排出されるCO₂削減だけでなく、製品製造から製品使用、廃棄・リサイクルの段階までのライフサイクルで将来的に「CO₂排出量ゼロ」にチャレンジします。低CO₂排出の材料製造や遮熱内装材開発、高効率なエンジン関連部品の開発、CO₂排出最小の製品製造を推進することにより、車室内の製品をエコプロデュースし「クリーンな製品」づくりにチャレンジしていきます。

天然資源枯渇

4



天然資源 使用量ミニマム化にチャレンジ

世界人口が増加し、需要の急速な伸びや大量の資源採掘が続けば、2050年までに現有埋蔵量を超えてしまう化石燃料資源、鉱物資源が多数存在※3します。トヨタ紡織グループは、易解体性・リサイクル設計の推進やリサイクル技術開発による材料循環や、植物由来材料などの活用拡大を通じた材料置換を実現し、「天然資源使用量ミニマム化」にチャレンジしていきます。

※3 独立行政法人物質・材料研究機構資料
「2050年までに世界的な資源制約の壁」（2007年）

5



トヨタ紡織グループ 廃棄物ミニマム化にチャレンジ

トヨタ紡織では、これまでに3R活動（リデュース：廃棄物量を減らす、リユース：繰り返し使う、リサイクル：再度資源として生かす）を強力に推進し、2007年より直接埋立廃棄物ゼロ※4を達成しています。今後はグローバルへ活動を拡大し、廃棄物を出さない、資源の有効活用を狙った設計・工法開発やリサイクル技術開発、マテリアルリサイクル100%（部品から部品をつくる）へ挑戦し、「トヨタ紡織グループ廃棄物ミニマム化」にチャレンジしていきます。

※4 トヨタ紡織では、最終的に埋め立て処分した廃棄物の比率が「0.5%未満」を直接埋立廃棄物ゼロと定義しています

水不足

3



トヨタ紡織グループ 生産工程 水リサイクル化 による排出ゼロにチャレンジ

気候変動や世界人口の急速な増加（2013年：72億人⇒2050年：97億人）により、2050年には水不足、水ストレス※2に苦しむ人々が40億人に達すると言われています。トヨタ紡織グループでは、製品の洗浄や塗装の工程などで水を使用していますが、水レス工程への置換、排水の浄化再利用、雨水利用するなどの循環サイクルを構築し、「生産工程の水リサイクル化による排出ゼロ」にチャレンジしていきます。

※2 水利用量 / 河川の潜在的な水利用量×1：水ストレス高

生物多様性危機

6



森づくり活動 132万本植樹にチャレンジ

私たちの生活や文化は、生物多様性がもたらす恵みによって支えられてきました。しかしながら世界では毎年、日本の国土面積の約1/3に相当する約1300万haの森林が消失※5しています。トヨタ紡織は、グループのネットワークを活用し、各国・各地域の固有種の生息地保護や森林の保護・豊かな生息地の復元に貢献するため、「森づくり活動132万本植樹」にチャレンジしていきます。

※5 「世界森林資源評価 2010」国連食糧農業機関（FAO）